

第五表ニ掲記セル生産、死産、死亡ノ數ハ本籍人口ニツイテ之ヲ示セルニ非ズ、却テ本村ニ本籍ヲ有スル者ニシテ本村以外ノ地ニ出寄留シ居ル中、生産若クハ死産ヲ行ヒタル者又ハ死亡セル者ヲ本籍人口ヨリ删除シ又同様ニ寄留届ヲ爲サズシテ、出稼等爲シ居ル中死亡セルモノモ本籍人口ヨリ删除セルモノナリトス、明治四十四年—大正九年ノ十箇年ニツキ各年別ニ此等生産、死産及死亡ノ數ヲ常住人口ニ對比シ千分比例ヲ以テ示セバ左ノ如シ

年次	生産(常住人口千に付)	死産(常住人口千に付)	死亡(常住人口千に付)
明治四十四年	三六・〇九	三〇・三〇	一九・九四
大正元年	三〇・三〇	三〇・〇六	二一・七九
同 二 年	三七・六八	三三・六七	一九・三三
同 三 年	三四・一〇	一九・九七	二〇・三三
同 四 年	三一・三一	二・八一	一二・六六
同 五 年	三五・七四	一・七五	一八・九二
同 六 年	三一・七〇	一・七六	二〇・〇八
同 七 年	三二・一八	一・〇七	二七・八九
同 八 年	三一・〇五	〇・七六	一八・九三
同 九 年	三一・八一	二・八六	二二・五二
平均	三二・一四	二・〇九	二〇・二三

右表ニヨリ觀察スルニ死亡率ハ年次ニヨリテ消長アリ、我邦近年ノ大勢タル死亡率ノ遞増ノ傾向ハ本農村ニ之ヲ認メザルモ、シカモ、大正七年全國ニ猖獗ヲ極メタル流行性感冒ノ影響ハ免ルル能ハズシ

常住人口千ニ付二七・八九ノ如キ累年其ノ類ヲ見ザル甚ダ大ナル死亡數ヲ示スニ至レリ
 本村ノ生産率ハ年次ニヨリテ高低アルヲ認ムレドモ大體ノ形勢トシテハ大正四年以來ハ減少ノ傾向ヲ有シ是レ亦本邦全體トシテノ生産率遞減ノ現象ト一致ス
 本村ニ於ケル死産率ハ逐年遞減ノ趨勢ヲ有シ是レ亦本邦全體トシテノ死産率遞減ノ現象ト軌ヲ同シクス

更ニ生産、死産、死亡ノ各項ニツキ次ニ細説スベシ
 一〇、生 産 (第五表、第六表、第七表参照)

明治四十四年—大正九年ノ十箇年間ノ本村ニ於ケル生産數ハ男四八三人、女四七九人、計九六二人ナリ、即チ男女略同數ニシテ又生産一年ノ平均ハ九六人ナリ、上記十箇年平均ノ常住人口二、八六七人ナルヲ以テ常住人口千ニ付生産三二・一四ナリ、同期間全國平均ノ人口千ニ對スル生産率、三二・七四ニ比較シ僅ニ低シ
 生産兒九六二人ヲ公生、私生ニ分ツニ公生兒九〇二人(九三・七六%)私生兒六〇人(六・二四%)ニシテ公生兒ガ甚多ク私生兒ガ少キヲ知ル
 公生兒九〇六人中四五七人(五〇・六一%)ハ男ニシテ四四五人(四九・七九%)ハ女ナリ、即チ男ノ方稍多シ

私生兒六〇人中三四人(五五・九五%)ハ女ニシテ二六人(四四・〇五%)ハ男ナリ、即チ女ノ方多シ
 茲ニ謂フ所ノ公生兒トハ婚姻届ヲ濟マセル夫婦間ニ生ジタル兒ヲ稱スルモノニシテ、例令ヒ長年月
 連添フ男女ト雖、婚姻届ノ手續ヲ履マザル者ノ兒ハ私生ト爲セリ

本村ニ於ケル十箇年ノ生産ヲ月ニヨリ分類スルニ左ノ如シ

月	實數	百分比	實數	百分比	
一月	一四〇	一四・六	七月	七〇	七・三
二月	一一〇	一一・四	八月	八二	八・五
三月	一〇六	一一・〇	九月	八六	八・九
四月	四六	四・八	十月	七九	八・二
五月	四六	四・八	十一月	七〇	七・三
六月	五九	六・一	十二月	七〇	七・三
七月	六八	七・一	計	九六二	一〇〇・〇

即チ生産ノ最多キ月ハ一月ニシテ、二月、三月之ニ次ギ、九月、十月、十一月モ多キ月ニ屬ス、最
 モ尠キハ四月及五月ナリ、生産兒ハ母體ノ受胎後大凡十箇月ヲ經テ分娩セラルルモノ多キヲ以テ以上
 ノ事實ハ之ヲ反面ヨリ觀察スレバ、受胎ノ時機ハ四月ニ最モ多ク五月、六月之ニ次ギ、十二月、一月
 二月モ多キ方ニ屬シ、七月、八月ニ於テ減少ス、即チ季節ヨリ云ヘバ、陽春ノ候ニ最モ多ク、嚴冬清
 秋ノ候之ニ次ギ、盛夏ニ於テ最モ尠シ

一一、死 産 (第八表、第九表參照)

本村ニ於ケル死産數ハ明治四十五年ヨリ大正九年マデ九箇年間ニ計五七、此ノ中、男二七、女二九
 男女不詳一ナリ、之ヲ公生ト私生トニ分テバ、公生四四、私生一三ナリ、公生死産兒中二三兒ハ男、
 二一兒ハ女、不詳一兒ニシテ、私生死産兒中、五兒ハ男、八兒ハ女ナリ
 上記九箇年間ニ於ケル本村ノ一箇年ノ平均死産數ハ六・三ニシテ人口千ニ付二・二一即チ同四間ノ全
 國平均死産數(人口千ニ對スル)二・〇八ニ比較シ稍高シ

本村ニ於ケル公生兒死産ハ公生兒出生百ニ付五・一八ニシテ私生兒死産ハ私生兒出生百ニ付二〇・〇
 〇ナリ、即私生死産ハ公生死産ヨリ多數ナルコト四倍弱ナリ

死産ヲ懷孕月數ニヨリ之ヲ擧グレバ左ノ如シ

懷孕月	實數	百分比
懷孕四箇月	三	一一・九
懷孕五箇月	三	一四・一
懷孕六箇月	四	一四・一
懷孕七箇月	三	五七
計	十三	

公生兒ノ死産ヲ懷孕月別ニ細説スレバ左ノ如シ

懷孕月	實數	百分比
懷孕四箇月	三	一四・六
懷孕五箇月	三	一四・六
懷孕六箇月	四	一四・六
懷孕七箇月	一	四・四
計	十一	

即チ一月ニ死亡者最モ多ク、次ニハ十月、十二月及七月、八月ニ多ク、少ナキハ二月、三月、四月、五月、六月、九月ニシテ就中四月ニ於テ最モ多シ、尙此ノ關係ヲ明瞭ニ爲ス爲、一年平均ニ日死亡數ヲ假ニ千ト定メ之ニ比較シテ各月平均一日死亡數ヲ示セバ左ノ如クニシテ何月ニ死亡者多キヤノ關係ハ前表ノ成績ト全ク同ジ

月	男	女	計
一	一、二八六・三	一、五一二・八	一、四〇一・九
二	七二七・二	八七二・二	八〇一・二
三	九一二・八	七五六・四	八三三・〇
四	六八六・〇	六五八・二	六七一・八
五	一、〇三七・三	七一六・六	八七三・六
六	八一四・六	七四〇・五	七七六・八
七	一、二八六・三	九九五・三	一、一三七・八
八	七四六・九	一、五一二・八	一、一三七・八
九	八一四・六	九八七・三	九〇二・八
十	一、二〇三・三	一、一九四・三	一、一九八・七
十一	九八六・一	一、〇六九・六	一、〇二八・七
十二	一、四五二・二	九五五・五	一、一九八・七

一三、死亡原因

(第十二表参照)

上記十箇年間死亡者五八〇人ノ死亡原因ヲ病類(統計局死因大分類)別ニ分チ列擧スレバ左ノ如

病類	男	女	計
一、傳染性病及全身病	四二	六二	一〇四
急性傳染病	三	一三	一六
其他ノ傳染病及全身病	三九	四九	八八
二、神経系ノ疾患	六四	四八	一一二
三、血行器ノ疾患	二	七	九
四、呼吸器ノ疾患	五六	五五	一一一
五、消化器ノ疾患	五八	四五	一〇三
六、泌尿及生殖器ノ疾患	一〇	一三	二三
七、妊娠及産ニ因スル疾患	〇	四	四
八、皮膚及運動器ノ疾患	〇	三	三
九、畸形及幼児ニ固有ナル疾患	一七	一六	三三
一〇、老年(老衰)	一一	二六	三八
一一、外因ニ依ル死	三	六	九
一二、不明ノ診断及不詳ノ原因	二〇	一一	三一
計	二八四	二九六	五八〇

右表ニヨリ死亡原因ノ多數ヲ占ムル順序ニヨリ疾病ノ種類ヲ擧グレバ(一)神経系ノ疾患(二)呼吸器ノ疾患(三)傳染病及全身病(四)消化器ノ疾患ハ最モ多キ疾患ニ屬シ、何レモ十箇年ノ計一〇〇以上ナリ、爾他ノ疾患ハ之ト比較スレバ著シク其ノ數ヲ減少シ、何レモ四〇以下トナル、即チ(五)老衰

(六) 畸形及幼兒ニ固有ナル疾患 (七) 泌尿及生殖器ノ疾患 (八) 血行器ノ疾患 (九) 外因ニ依ル死
 (十) 妊娠及産ニ因スル疾患 (十一) 皮膚及運動器ノ疾患ノ順序ニシテ此他ニ不明ノ診断及不詳ノ原因 (計三一) アリ

右各種疾病中各年ノ男女人口ニ比シ男女二性間ニ死因疾病ニ顯著ノ差異ヲ認ムル疾病ヲ擧グレバ、傳染性病及全身病(就中急性傳染病)血行器ノ疾患、皮膚及運動器ノ疾患、老衰、外因ニ依ル死ハ女子ノ方ニ多ク、神経系ノ疾患、消化器ノ疾患ハ男子ノ方ニ多シ、而シテ呼吸器ノ疾患、泌尿及生殖器ノ疾患、畸形及幼兒ニ固有ナル疾患ハ男女間ニ余リ差異ヲ認メズ

更ニ前記大分類ニヨリ示サレタル疾病ノ各類中、多數ニ現ハレタル疾病ヲ中分類ヲ以テ示セバ左ノ如シ

第一類	肺 結 核	男	九	女	九	計	一八
	微 毒	男	一四	女	一七	計	三一
	癌	男	九	女	一五	計	二四

肺結核死ハ二十歳未満ニ於テハ男女何レニモ之ヲ認メズ、二十歳以上五十歳未満ノ者ニ最モ多ク現ハレ且男子ノ罹病女子ヨリモ多シ

微毒死ハ三十一名中一名ヲ除ク他ハ全部五歳未満ノ者ニシテ其ノ内一歳未満ノ者男一二名女一五名

計二七名ヲ算ス、即チ微毒死中遺傳微毒死甚ダ多シ

癌ニ因ル死ハ五十歳以上ノ者ニ最モ多ク、女子ノ方男子ヨリモ多數ナリ

第二類	肺 膜 炎	男	三〇	女	二四	計	五四
	腦出血及腦軟化	男	二二	女	一八	計	四〇

腦膜炎死ハ五歳未満ノ者大部分ヲ占ム即チ五四名中四名ハ五歳未満ノモノニシテ其ノ内二〇名ハ男、二一名ハ女ナリ、五歳以上ニ於テハ女子ニ之ヲ認ムルコト甚少數ニシテ三名ニ過キズ爾他ノ者ハ皆男子ナリ

腦出血及腦軟化死ハ四十名中一名ヲ除ク外ハ皆四十歳以上ノ者ニシテ男子ノ方女子ヨリモ稍多シ

第三類 血行器ノ疾患ニ就テハ特記スベキコトナシ

第四類	急性氣管支炎	男	九	女	一〇	計	一九
	慢性氣管支炎	男	一〇	女	五	計	一五
	肺炎及氣管支肺炎	男	二六	女	三四	計	六〇

急性氣管支炎死ハ凡テ〇歳以上三歳未満ノ者ニ之ヲ認メ男女畧同數ナリ

慢性氣管支炎死ハ四十五歳以上ノ者ニ之ヲ認メ、男子ノ方女子ヨリモ多シ

肺炎及氣管支肺炎死ハ六十名中約半數ハ五歳未満ノ者ニ之ヲ認メ且五歳未満ニ於テハ男女ニヨリ其

數ニ余リ差異アラザレドモ、五歳以上ニ於テハ女子ノ方多數ナリ

第五類ノ消化器ノ疾患中ニテハ下痢及腸炎死ガ最モ多數ヲ占メ四七名ヲ算ス、此ノ中一九名ハ五歳未滿ノ者ニシテ男兒ノ方多シ

第六類ノ泌尿及生殖器ノ疾患中ニテハ腎臟炎及ブライト氏病ハ男八名、女一名計一九名ナリ

第七類ノ妊娠及産ニ關シテハ産褥熱死ハ二名、爾他ノ妊娠及産ニ因スル疾患モ二名ニシテ少數ナリ

第九類ノ畸形及幼兒ニ關シテハ畸形及先天性弱質死ガ一歳未滿ニ於テ男一四名、女一六名、計三〇名ヲ示ス

第十類ノ老年ニ於テハ六〇歳以上ノ老衰死ガ男一四名、女二六名計三八名ヲ示シ、男子ヨリモ女子ノ方ニ長壽者多キヲ知ル

第十一類ノ外因ニ依ル死中ニハ自殺、中毒死ヲ全ク認メズ、爾他ノ外因ニ依ル死ハ女子ノ方多數ナリ

一四、年齢別死亡 (第十二表参照)

本村ニ於ケル明治四十四年ヨリ大正九年ニ至ル十箇年ノ死亡ニ就キ且死亡者千ニ付平均一箇年ノ死亡數ヲ五歳未滿ハ各歳別ニ、五歳以上ハ五歳階級ノ年齢ニシテ示セバ左表ノ如シ

年齢別死亡表 (死亡者千中)

年齢	自明治四十四年至大正九年ノ年均		計	大正八年ノ全國	
	男	女		男	女
〇歳	三三・三九	二七・〇三	二九六・六	二三六・五	
一歳	五二・八	四三・九	四八・三	六四・一	
二歳	二八・二	四〇・五	三四・五	三三・七	
三歳	七・〇	二七・〇	一七・二	二一・七	
四歳	一〇・六	一〇・二	一〇・三	一四・一	
計	四二二・五	三九一・九	四〇六・九	三七〇・一	
五歳	二四・七	二〇・三	二二・四	三一・二	
一〇歳	一七・六	二二・六	二〇・七	二一・七	
一五歳	七・〇	二〇・三	一三・八	四六・六	
二〇歳	三五・二	三七・二	三六・二	四七・三	
二五歳	三一・七	三〇・四	三一・〇	三七・四	
三〇歳	二八・二	二三・六	二五・九	三二・六	
三五歳	二四・七	四七・三	三六・二	三〇・七	
四〇歳	二二・一	二七・〇	二四・二	三〇・八	
四五歳	二二・一	三七・二	二九・三	二七・七	
五〇歳	一七・六	四〇・五	二九・三	三四・五	
五五歳	七・〇	二七・〇	四八・三	三五・五	
六〇歳	七・四	六七・六	六九・〇	四九・四	
六五歳	四九・三	五四・〇	五一・七	五七・四	
七〇歳	七七・五	五四・一	六五・五	五九・七	
七五歳	四九・三	六四・二	五六・九	四六・六	

八〇—八五	一四・二	一六・九	一五・五	三五
八五—九〇	一四・一	一三・五	一三・八	二二・一
九〇—九五	—	三・四	一・七	二・九
九五—	三・五	—	一・七	〇・五
合計	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇	一、〇〇〇・〇

即チ本村ニ於テハ五歳未満ノ小兒死亡(死亡者一、〇〇〇)中四〇六・九ハ全國平均(三七〇・一)ヨリモ高率ナルモ五歳以上十五歳未満(四三・一)ハ全國平均(五二・九)ヨリモ低率ナリ、十五歳以上四十歳未満ノ青壯年期ノ死亡(一四三・一)ハ全國平均(一九四・六)ヨリモ遙ニ低率ナリ

而テ本村ニ於ケル男女各性ニ就テ見ルニ十歳以上四十歳未満ニ於テハ二十五歳以上三十五歳未満ヲ除クノ他ハ凡テ女子ノ方死亡率高ク、就中十五歳以上二十歳未満及三十五歳以上四十歳未満ニ於テハ顯著ニ高率ナリ

一五、小兒死亡 (第十三表参照)

明治四十四年ヨリ大正九年ニ至ル十箇年ニ於ケル五歳未満ノ小兒死亡者ハ男一二〇人、女一二六人、計二三六人ニシテ各年齢別死亡ハ左ノ如シ

年	男	女	計
〇—一	九二	八〇	一七二

一—二	一五	一三	二八
二—三	八	一二	二〇
三—四	二	八	一〇
四—五	三	三	六
計	一二〇	一二六	二三六

五歳未満死亡者ノ死亡原因ヲ大分類ニ就テ見ルニ

- 一、傳染性病及全身病 四〇
- 二、神経系ノ疾患 四九
- 三、血行器ノ疾患 二
- 四、呼吸器ノ疾患 五二
- 五、消化器ノ疾患 三二
- 六、泌尿及生殖器ノ疾患 三
- 七、皮膚及運動器ノ疾患 二
- 八、畸形及幼年 三三
- 九、外因ニ依ル死 二
- 一〇、不明ノ診断及不詳ノ原因 二一

ニシテ小兒死亡ノ中多數ヲ占ムルハ呼吸器ノ疾患、神経系ノ疾患、傳染性病及全身病、畸形及幼年、消化器ノ疾患等ナリ而シテ此等死因ヲ更ニ中分類ニ就キ其ノ主要ナルモノヲ擧グレバ肺炎及氣管支肺

炎、急性氣管支炎、腦膜炎、微毒、畸形及先天性弱質、下痢及腸炎是レナリ

五歳未満ノ小兒ノ死亡ヲ月別ニ示セバ左ノ如シ

死亡ノ月	人員	百分比	死亡ノ月	人員	百分比
一月	二七	一一・四	八月	一七	七・二
二月	一九	八・一	九月	一六	六・八
三月	二二	九・三	十月	二七	一一・四
四月	一一	四・七	十一月	一七	七・二
五月	一八	七・七	十二月	二七	一一・四
六月	一三	五・五	計	二三六	一〇〇・〇
七月	二二	九・三			

即チ十二月、一月ノ如キ嚴寒ノ候ニ死亡多ク四月、五月、六月ノ如キ陽春、初夏ノ候ニ死亡少シ

生後一歳未満ノ乳兒死亡ヲ月別ヲ以テ示セバ左ノ如シ

死亡ノ月	人員	百分比	死亡ノ月	人員	百分比
一月	一八	一〇・五	八月	一一	六・四
二月	一四	八・一	九月	一二	七・〇
三月	一五	八・七	十月	一八	一〇・五
四月	一一	六・四	十一月	一四	八・一
五月	一二	七・〇	十二月	二一	一二・二
六月	一一	六・四	計	一七二	一〇〇・〇
七月	一五	八・七			

乳兒死亡ノ病類中主要ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

- 一、肺炎及氣管支肺炎並急性氣管支炎 三五
- 二、畸形及先天性弱質 三〇
- 三、微毒 二七
- 四、腦膜炎 二一
- 五、下痢及腸炎 二二

即チ最モ多キ死亡原因ハ呼吸器疾患ニシテ之ニ次グハ畸形及先天性弱質、遺傳微毒、腦膜炎ノ如キ父母ノ虛弱ナル體質、疾病、妊娠ノ疾病ニ負因スルモノナリ而テ下痢及腸炎之ニ次グ

本村ニ於ケル乳兒死亡ハ明治四十四年ヨリ大正九年ニ至ル十箇年間ノ總數一七二人、一箇年平均一七人ナリ、而テ同期間ニ於ケル生産數ハ一箇年平均九六人ナルヲ以テ生産百ニ付乳兒死亡ハ一七・七ニシテ全國平均(大正八年)ノ一七・〇ニ比較シ稍高率ナリ

一六、乳兒期ノ營養方法 (第十四表参照)

本村十五歳未満ノ小兒ニ付其ノ乳兒タリシ時如何ナル營養物ヲ以テ哺育セラレシヤヲ知ランガ爲八三三名ヲ検査セルニ左ノ結果ヲ得タリ

養方法		人員	検査人員ニ 對スル百分比
一、人乳養	母乳	七九一	九五・〇
	母乳	七八五	九四・二
	乳母乳	四	〇・五
	母乳及乳母乳	二	〇・三
二、人工養	ナシ		
計			
養方法		人員	検査人員ニ 對スル百分比
三、混合養	母乳及牛乳	四二	五・〇
	母乳及煉乳	九	一・一
	母乳及煉乳	七	〇・八
	其ノ他	二六	三・一
計		八三三	一〇〇・〇

即チ人乳養最モ多數ヲ占メ就中母乳養ハ九割五分ニ達ス、純然タル人工養ヲ行フモノハ全ク無ク、母乳ニ兼ヌルニ牛乳又ハ煉乳等ヲ以テスルモノハ少數ニシテ僅ニ五分ニ過ギズ、表中「其ノ他」トアルモノハ母乳牛乳重湯ノ混合養ノ如キモノヲ指スモノニシテ牛乳煉乳以外ニ於テハ重湯ノ使用セラルル場合多シ

一七、離乳期 (第十五表参照)

離乳期	人員	離乳期	人員
一年以上二年六箇月	一三	三年以上六年六箇月	四
一年六箇月以上二年	四六	三年以上四年六箇月	一〇九
一年以上二年六箇月	九四	四年以上四年六箇月	一
二年六箇月以上三年	一〇	四年以上五年六箇月	二六
	三〇一	五年以上五年六箇月	一

本村十五歳未満ノ小兒六二七名ニ就キ其ノ離乳期ヲ調査シタルニ左表ノ如シ

五年六箇月以上六年	六年以上六年六箇月	六年六箇月以上七年	計	七年以上
一五	一	五	二一	三
				六二七

即チ授乳ハ小兒ノ四歳ニ達スルマデ繼續スルモノ最モ多ク、離乳ノ最モ多ク行ハルルハ二年六箇月以上三年未満ノ期間ナリ、而テ七年以上マデモ授乳ノ行ハルルモノハ甚少數ナガラ三名ニ之ヲ見タリ

一八、村民ノ體格 (第十六表、第十七表、第十八表参照)

本村ノ現住人口二、一七四人中九割四分二厘ニ當ル一、九九一人(男九七一人、女二、〇二〇人)ノ身體検査ヲ行ヘリ、身體検査ノ成績ハ體重、身長、胸圍、頭圍ヲ年齢一月未満ノ者ハ週齡、一月以上一年未満ノ者ハ月齡別ニ、一歳以上二十五歳未満ノ者ハ各歳別ニ、二十五歳以上ノ者ハ五歳別ニ集計セリ

一九、年齢別體格検査人員

年齢	男	女	計
〇歳	三三	二九	六二
一歳	二七	二四	五一
二歳	一九	三二	五一
三歳	二四	二七	五一
四歳	四三	二〇	六三
五歳	二二	三三	五五
計			三二七

リモ重シ

×三島氏測定ノ體重表ニ比較シ本村幼兒ノ優ルモノハ四歳以上五歳未滿ノ女兒ノミニシテ他ノ場合ニ於テハ凡テ劣ル

體重(一歳未滿者ヲ省略セリ、爾後ノ表中(優)トアルハ三島氏表ノ示ス數字ヨリモ本村民ノ方優勢ニアルモノヲ示シ(同)トアルハ優勢ナキモノヲ示ス)

年齢	本村	三島氏表	年齢	本村	三島氏表
一歳未滿	二・三七二	二・八八〇	一歳未滿	二・三三二	二・六四〇
二歳	三・一五一	三・三一〇	二歳	二・七八六	三・〇七〇
三歳	三・五一〇	三・六六〇	三歳	三・四〇二	三・四四〇
四歳	三・八二九	四・〇六〇	四歳	三・八七二(優)	三・八七〇
五歳	四・四八六(優)	四・四一〇	五歳	四・〇〇七	四・二七〇

身長

身長モ體重ト同ジク本村幼兒ハ四歳以上五歳未滿ニ於テ女兒ノ方男兒ヨリモ優ル外ハ各年齢階級ニ於テ男兒ノ方一般ニ優ル而テ男女各年齢階級トモ三島氏表ノ示ス數字ト比較スレバ常ニ劣勢ニアリ

年齢	本村	三島氏表	年齢	本村	三島氏表
一歳未滿	二・四四	二・六二	一歳未滿	二・三三	二・六〇
二歳	二・八二	二・八二	二歳	二・八二	二・八二
三歳	三・〇三	三・〇三	三歳	三・〇三	三・〇三
四歳	三・二〇	三・二〇	四歳	三・二〇	三・二〇
五歳	三・三九	三・三九	五歳	三・三九	三・三九

身長

年齢	本村	三島氏表	年齢	本村	三島氏表
一歳未滿	二・四四	二・六二	一歳未滿	二・三三	二・六〇
二歳	二・八二	二・八二	二歳	二・八二	二・八二
三歳	三・〇三	三・〇三	三歳	三・〇三	三・〇三
四歳	三・二〇	三・二〇	四歳	三・二〇	三・二〇
五歳	三・三九	三・三九	五歳	三・三九	三・三九

胸圍

本村幼兒男女間ノ胸圍ノ差異ハ各年齢階級トモ男兒ハ女兒ヨリモ優リテ胸圍廣ク、又本村男女幼兒ノ胸圍ハ三島氏表ノモノト大差ナキノミナラズ一歳以上二歳未滿ノ男兒、四歳以上五歳未滿ノ男女兒及五歳以上六歳未滿ノ男兒ニ於テハ三島氏表ヨリモ優勢ニアリ

年齢	本村	三島氏表	年齢	本村	三島氏表
一歳未滿	一・四八(優)	一・四五	一歳未滿	一・四七	一・五三
二歳	一・五七	一・五九	二歳	一・五四	一・五六
三歳	一・六二	一・六三	三歳	一・六〇(同)	一・六〇
四歳	一・六八(優)	一・六七	四歳	一・六六(優)	一・六四
五歳	一・七八(優)	一・七四	五歳	一・七〇	一・七四

三島氏調査ニ比較シ本村幼兒ノ體格ニ就キ概括的批評ヲ下セバ、本村一歳以上六歳未滿ノ兒童ニアリテハ體重及身長ハ三島氏ノ得タル數字ヨリモ劣ルモ胸圍ハ之ニ優ルモノト謂フベシ

二一、六歳以上二十五歳未満者ノ體格

六歳以上二十五歳未満者ノ體格ハ之ヲ文部省ノ發表ニ係ル明治四十年ヨリ大正四年ニ至ル九箇年間ノ學生、生徒及兒童平均體重、身長、胸圍表(以下單ニ文部省體格表又ハ文部省表ト略記ス)ト比較セリ

體 重

大體ニ於テ論ズル時ハ本村民ノ體重ハ男子ニ於テハ文部省體格表ノ示セル數字ヨリモ優リ、女子ニ於テハ伯仲ノ間ニ在リ、文部省體格表ヨリモ優勢ヲ示ス年齢及體性ハ七—八歳男、八—九歳男、九—十歳男女、十一—十二歳男女、十二—十三歳男、十五—十六歳女、十七—十八歳男、十八—十九歳女、十九—二十歳男女、二十一—二十二歳男女、二十三—二十四歳男女、二十四—二十五歳男女ナリ

本村民中女ノ體重ノ男ノヨリモ重キ年齢ハ十四—十五歳、十五—十六歳ナリ

體 重

(爾後ノ表中(優)又ハ(同)トアルハ文部省體格表ノ示ス數字ニ比較シ本村民ノ方優レルモノ又ハ相等シキモノナルヲ示ス)

年 齡	本 村	文 部 省 表	本 村	文 部 省 表
六—七	四・六三二	四・六七二	四・五八六(優)	四・五一五
七—八	五・二〇一(優)	五・一一五	四・八七四	四・九一〇

年 齡	本 村	文 部 省 表	本 村	文 部 省 表
八—九	五・七〇一(優)	五・五九九	五・三三三	五・三九六
九—一〇	六・二五〇(優)	六・一一〇	六・一〇六(優)	五・九一二
一〇—一一	六・九四八(優)	六・六三二	六・六一七(優)	六・四八三
一一—一二	七・九八九(優)	七・二二八	六・九六七	七・二〇三
一二—一三	八・〇〇〇(優)	七・九九四	七・九八九	八・一九五
一三—一四	八・九三三	八・九八二	八・八六九	九・二五五
一四—一五	一〇・一二二	一〇・三六七	一〇・三四八	一〇・四二一
一五—一六	一〇・九二五	一一・八五一	一一・一九三(優)	一一・四三一
一六—一七	一二・四三九	一二・九二五	一二・九〇九	一二・〇五三
一七—一八	一三・九〇六(優)	一三・六二二	一三・一三五	一二・五一〇
一八—一九	一三・八三〇	一四・〇六五	一三・一五三(優)	一二・八一七
一九—二〇	一四・六〇三(優)	一四・〇六五	一三・七四五(優)	一二・九五九
二〇—二一	一四・七二〇(優)	一四・三〇八	一三・三七三(優)	一二・九七三
二一—二二	一三・四六七	一四・四四七	一二・六二一	一二・九七二
二二—二三	一四・三四五	一四・四七六	一二・五二三	一二・八七四
二三—二四	一五・四五二(優)	一四・四二六	一三・〇八六(優)	一二・七五一
二四—二五	一四・五七一(優)	一四・四一一	一二・八九五(優)	一二・六三九

身 長

身長ハ六歳以上十一歳未満ニ於テハ一般ニ文部省體格表ニ示セル數字ヨリモ優ル即チ七歳以上九歳未満ノ女兒ヲ除外ハ男女共ニ優勢ナリ

然シ十一歳以上ニ於テハ何レノ年齢階級ニ於テモ男女共ニ文部省體格表數字ヨリモ下位ニ在リ

男女間ノ差異ハ唯十二歳以上十三歳未満ニ於テ女ガ男ニ優ルノミニシテ他ノ年齢階級ニ於テハ常ニ男ノ方優ル

四四

年 齡	身 長	
	男	女
六歳	本村 三・五三(優)	本村 三・五〇(優)
七歳	三・六九(優)	三・六一
八歳	三・八七(優)	三・七八(同)
九歳	四・〇〇(優)	三・九五(優)
一〇歳	四・一七(優)	四・一四(優)
一一歳	四・二五(同)	四・一六
一二歳	四・三六	四・四〇
一三歳	四・五六	四・五六
一四歳	四・七七	四・五六
一五歳	四・八九	四・六六
一六歳	五・〇九	四・八二
一七歳	五・一九	四・八三
一八歳	五・二九	四・八三
一九歳	五・三二	四・八八
二〇歳	五・三三	四・八七
二一歳	五・三三	四・九〇
二二歳	五・三三	四・八六
二三歳	五・三三	四・八一
二四歳	五・三三	四・八一
二五歳	五・三三	四・八一

胸 圍

二三—二四
二四—二五

五・三三(同)
五・二七

五・三三
五・三三

四・八一
四・八七

四・九四
四・九二

本村男子ノ胸圍ハ大體ヨリ觀察スレバ文部省體格表ノ示ス數字ヨリモ廣濶ナリ即チ六歳以上二十五歳未満ニ於テハ唯十三歳以上十六歳未満ニ於テ文部省體格表ニ劣ルノミニシテ他ノ年齢階級ニアリテハ九歳以上十歳未満ニ於テ彼此相等シキ外ハ凡テ彼ニ優ル

本村女子ノ胸圍ヲ文部省體格表ニ比較スレバ六歳以上二十歳未満ニ於テハ六歳以上八歳未満、十歳以上十一歳未満、十四歳以上十六歳未満、十九歳以上二十歳未満ハ優リ、十一歳以上十三歳未満ハ相等シク、他ノ年齢階級ハ劣リテ大體ヨリ之ヲ觀テ優劣ナキヲ知ルモ二十歳以上二十五歳未満ニ於テハ常ニ彼ヨリモ劣位ニ在リ

本村女子胸圍ノ男子ノヨリモ優レル年齢階級ハ十四歳以上十六歳未満ニシテ十一歳以上十三歳未満ニ於テハ男女共ニ相等シ

十一歳以前ニ於テハ男子ヨリモ劣勢ニアリタル女子ノ胸圍ガ十一歳以後ニ於テ男子ノ胸圍ト同一ノ大サヲ有シ十四歳以上十六歳未満ノ間ニ於テ之ヲ陵駕スルハ女子乳房ガ破瓜期ニカケテ特ニ急ニ發育スルガ爲ナリ

四五

胸圍

年 齡	本 村		文 部 省 表	
	尺	寸	尺	寸
6歳 未滿	一・八五(優)	一・七九	一・七九	一・七三
7歳	一・八九(優)	一・八五	一・八五	一・七八
8歳	一・九二(優)	一・九一	一・九一	一・八四
9歳	一・九七(同)	一・九七	一・九七	一・九〇
10歳	二・〇二(優)	二・〇三	二・〇三	一・九六
11歳	二・〇九(優)	二・〇九	二・〇九	二・〇三
12歳	二・二一(優)	二・一六	二・一六	二・一〇
13歳	二・二四	二・二五	二・二五	二・一〇
14歳	二・三三	二・三五	二・三五	二・二二
15歳	二・四四	二・四七	二・四七	二・三三
16歳	二・六二(優)	二・五六	二・五六	二・四三
17歳	二・七四(優)	二・六六	二・六六	二・四九
18歳	二・七二(優)	二・六九	二・六九	二・五八
19歳	二・七九(優)	二・七九	二・七九	二・五九
20歳	二・八一(優)	二・七九	二・七九	二・五九
21歳	二・七九(同)	二・七一	二・七一	二・五八
22歳	二・七九(優)	二・七一	二・七一	二・五七
23歳	二・九一(優)	二・七一	二・七一	二・五八
24歳	二・八〇(優)	二・七一	二・七一	二・五六

以上ニヨリ本村民ノ六歳以上二十五歳未滿者ノ體重、身長、胸圍ノ趨勢ヲ知り得タリ、即チ三島氏及文部省體格表ニ比較シ本村民ノ體格ニ於テ概括的ニ云ヘバ、體重、胸圍ハ男子ニ於テハ彼ニ優リ、女子ニ於テハ彼ト優劣ナク、身長ハ六歳以上十一歳未滿ニ於テ優ルモ十一歳以上二十五歳未滿ノ間ニ於テハ常ニ彼ニ及バズ、換言スレバ三島氏及文部省表ノ數字ノ示ス如キ體格ヲ有スル學生若ハ都市兒童ノ代リニ身長短ク胸圍廣ク且秤量ノ重キ體格ヲ有スル農民若ハ田舎ノ小供ガ現ハルルナリ

三三、二十五歳以上者ノ體格

體重、身長、胸圍トモ何レノ年齡階級ニ於テモ男子ハ女子ニ優ル

年 齡	本 村		文 部 省 表	
	尺	寸	尺	寸
25歳 未滿	一四・四九	一・二六	一・二六	一・二〇
30歳	一四・四〇	一・二七	一・二七	一・二〇
35歳	一五・〇九	一・二八	一・二八	一・二〇
40歳	一四・七二	一・二五	一・二五	一・二〇
45歳	一四・八四	一・二三	一・二三	一・二〇
50歳	一四・四三	一・二一	一・二一	一・二〇
55歳	一四・三七	一・二一	一・二一	一・二〇
60歳	一三・六六	一・一四	一・一四	一・二〇

年齢	男	女
二歳	五・二八	四・八四
三歳	五・二六	四・八五
四歳	五・二六	四・八〇
五歳	五・二七	四・八一
六歳	五・二九	四・七八
七歳	五・二九	四・八一
八歳	五・二九	四・七八
九歳	五・二九	四・八一
十歳	五・二九	四・七八
十一歳	五・二九	四・八一
十二歳	五・二九	四・七八
十三歳	五・二九	四・八一
十四歳	五・二九	四・七八
十五歳	五・二九	四・八一
十六歳	五・二九	四・七八
十七歳	五・二九	四・八一
十八歳	五・二九	四・七八
十九歳	五・二九	四・八一
二十歳	五・二九	四・七八

胸圍

年齢	男	女
二歳	二・七八	二・五七
三歳	二・八二	二・五七
四歳	二・八五	二・五八
五歳	二・八四	二・五九
六歳	二・八八	二・五七
七歳	二・七九	二・六一
八歳	二・八三	二・五三
九歳	二・八〇	二・五三
十歳	二・八〇	二・五七
十一歳	二・八〇	二・五七
十二歳	二・八〇	二・五七
十三歳	二・八〇	二・五七
十四歳	二・八〇	二・五七
十五歳	二・八〇	二・五七
十六歳	二・八〇	二・五七
十七歳	二・八〇	二・五七
十八歳	二・八〇	二・五七
十九歳	二・八〇	二・五七
二十歳	二・八〇	二・五七

三、身長一寸ニ對スル體重

身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ニツキ本村ノ成績ト三島氏體格表(六歳未満)及文部省體格表(六歳以

上二十五歳未満)トヲ比較スルニ男子ニ於テハ總計二十四箇ノ年齢階級中十箇ノ年齢階級ハ本村ノ方優リ、女子ニ於テモ總計二十四箇ノ年齢階級中十三箇ノ年齢階級ハ本村ノ方優リ他ニ猶彼此商ノ等シキ年齢階級一箇アリ而シテ此ノ本村ノ優勢ヲ示ス年齢階級ハ男子ニアリテハ十七歳以上、女子ニアリテハ十四歳以上ノモノニ甚ダ多シ

男女ヲ比較スレバ男ノ方優レル商ヲ有スル場合多キモ、女ノ商ノ方優レル場合モ決シテ甚ダ尠キニハアラズ即チ一歳以上二歳未満、四歳以上五歳未満、八歳以上九歳未満、十四歳以上十七歳未満、十八歳以上二十歳未満ニ於テハ何レモ女子ノ方優リ、六歳以上七歳未満及十一歳以上十二歳未満ニ於テハ男女互ニ相等シ、而テ二十歳以上ノ年齢階級ニ於テハ女子ノ男子ニ優レル場合ヲ決シテ見ズ

身長一寸ニ對スル體重 (一歳未満者ハ省略セリ)

年齢	本村	三島氏(六―二十五歳)	文部省表
一歳	九七	一一〇	一一〇
二歳	一一六	一一七	一一七
三歳	一二〇	一二一	一二一
四歳	一二三	一二六	一二六
五歳	一二三	一二六	一二六
六歳	一二四(優)	一二六	一二六
七歳	一二四(優)	一二六	一二六
八歳	一二四(優)	一二六	一二六
九歳	一二四(優)	一二六	一二六
十歳	一二四(優)	一二六	一二六
十一歳	一二四(優)	一二六	一二六
十二歳	一二四(優)	一二六	一二六
十三歳	一二四(優)	一二六	一二六
十四歳	一二四(優)	一二六	一二六
十五歳	一二四(優)	一二六	一二六
十六歳	一二四(優)	一二六	一二六
十七歳	一二四(優)	一二六	一二六
十八歳	一二四(優)	一二六	一二六
十九歳	一二四(優)	一二六	一二六
二十歳	一二四(優)	一二六	一二六

七—八	一四一(優)	一三九	一三五(同)
八—九	一四七	一四九	一四一
九—一〇	一五七(優)	一五四	一五四(優)
一〇—一一	一六七(優)	一六一	一六〇(優)
一一—一二	一六七	一七〇	一六七
一二—一三	一八四(優)	一八一	一八二
一三—一四	一九六	二〇〇	一九四
一四—一五	二一二	二一四	二二二(優)
一五—一六	二二四	二三五	二五三(優)
一六—一七	二四五	二四九	二四七(優)
一七—一八	二六六(優)	二五九	二五一
一八—一九	二六七(優)	二六六	二六九(優)
一九—二〇	二七七(優)	二六九	二八二(優)
二〇—二一	二八〇(優)	二七二	二七三(優)
二一—二二	二六三	二七一	二六〇
二二—二三	二六九	二七二	二六一(優)
二三—二四	二九〇(優)	二七〇	二七三(優)
二四—二五	二七七(優)	二七〇	二六五(優)
二五—三〇	二七五	二六二	二六二
三〇—三五	二七四	二六二	二六二
三五—四〇	二八七	二六七	二六七
四〇—四五	二八〇	二六〇	二六〇
四五—五〇	二八四	二五八	二五八

五〇

二四、身長百ニ對スル胸圍

五〇—五五	二七八	二五六
五五—六〇	二七五	二三八
六〇—六五	二六五	二四一
六五—七〇	二五六	二三七
七〇—七五	二六六	二三三
七五—八〇	二七五	二四四
八〇—八五	二七四	二二一
八五—九〇	二七四	二二一
九〇—九五	二〇四	二四一
九五—	二〇四	二四一

身長一〇〇ニ對スル胸圍ノ指數(胸圍 \times 100)ヲ各年齡階級ニツキ觀察スルニ一歳以上二歳未滿ハ男子六〇・七、女子六二・七ニシテ胸圍ハ身長ノ二分ノ一ヨリモ著シク大ナリ、然ルニ年齡漸次長ズルニ從ヒ胸圍ノ指數モ漸次減シ來リ男子ニ於テハ八歳以上九歳未滿、女子ニ於テハ七歳以上八歳未滿ニテ身長ノ略二分ノ一トナル、然ルニ更ニ其ノ後ノ年齡ニ於テハ胸圍ハ身長ノ二分ノ一ヨリモ小トナリ、男子ニ於テハ十四歳以上十五歳未滿、女子ニ於テハ九歳以上十歳未滿ニ至リ胸圍ノ指數最モ小トナル、猶年齡長ズレバ再ヒ胸圍ノ指數ヲ増シテ男子ニ於テハ十五歳以上十六歳未滿、女子ニ於テハ十四歳以上十五歳未滿ニテ身長ノ約二分ノ一トナル、此ヨリ以後高齢ニ至ル迄ハ常ニ身長ノ二分ノ一以上ヲ示

シ且大體ニ於テ年齢ヲ重ヌレバ重ヌル程胸圍ノ指數ハ漸次増大スルモノナリ
身長百ニ對スル胸圍ノ指數

年齢	本村	三島氏 (六―二十五歳 八文部省表)	本村	三島氏 (六―二十五歳 八文部省表)
一歳	六〇・七	五八・七	六二・七	五八・八
二歳	五七・一	五六・三	五八・九	五五・七
三歳	五五・四	五三・七	五五・八	五三・三
四歳	五三・八	五二・〇	五三・〇	五一・五
五歳	五三・二	五一・三	五二・六	五〇・五
六歳	五二・三	五〇・八	五一・〇	四九・七
七歳	五一・二	五〇・四	四九・五	四九・〇
八歳	四九・七	五〇・〇	四八・五	四八・六
九歳	四九・四	四九・六	四七・七	四八・三
一〇歳	四九・四	四九・二	四八・三	四八・〇
一一歳	四九・一	四九・一	四八・七	四七・八
一二歳	五〇・六	四八・八	四七・九	四七・六
一三歳	四九・二	四八・八	四八・四	四八・一
一四歳	四九・一	四八・五	四八・四	四九・〇
一五歳	五〇・〇	四八・五	五一・六	五〇・一
一六歳	五一・五	四九・三	五〇・九	五〇・九
一七歳	五二・三	四九・八	五一・六	五一・七
一八歳	五二・四	五〇・二	五二・四	五二・五

一九	五二・八	五〇・六	五三・四	五二・六
二〇	五三・四	五〇・九	五一・七	五二・六
二一	五二・九	五〇・八	五一・六	五二・二
二二	五二・四	五〇・八	五二・八	五二・〇
二三	五四・五	五〇・八	五四・八	五二・三
二四	五三・二	五〇・八	五三・二	五二・二
二五	五二・七	五〇・八	五三・〇	五二・二
三〇	五三・六	五〇・八	五三・〇	五二・二
三五	五四・二	五〇・八	五三・八	五二・二
四〇	五三・八	五〇・八	五三・八	五二・二
四五	五五・二	五〇・八	五四・七	五二・二
五〇	五三・八	五〇・八	五四・三	五二・二
五五	五四・一	五〇・八	五三・五	五二・二
六〇	五四・三	五〇・八	五四・三	五二・二
六五	五二・九	五〇・八	五四・〇	五二・二
七〇	五三・四	五〇・八	五三・三	五二・二
七五	五四・六	五〇・八	五七・二	五二・二
八〇	五八・〇	五〇・八	五一・五	五二・二
八五	九〇	五〇・八	五六・七	五二・二
九〇	九五	五〇・八		五二・二
九五		五〇・八		五二・二

二五、體重別人員

滿二十歳以上ノ本村民ニ就キ其ノ體重ヲ最モ輕キモノヨリ一貫目毎ニ區分シ舉グレバ左表ノ如クニシテ男ニ於テハ十三貫以上十五貫未滿、女ニ於テハ十一貫以上十四貫未滿ヲ通常トシ最モ多數ナル階級ハ男ニ於テハ十四貫以上十五貫未滿、女ニ於テハ十二貫以上十三貫未滿ナリ

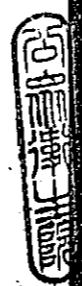
體重	男	女	計
七貫八	1	2	3
八貫九	1	2	3
九貫〇	1	2	3
一〇貫一	4	2	6
一〇貫二	1	1	2
一一貫三	2	1	3
一一貫四	6	1	7
一二貫五	1	1	2
一二貫六	1	1	2
一三貫七	4	1	5
一三貫八	1	1	2
一四貫九	7	1	8
一四貫〇	1	1	2
一五貫一	1	1	2
一五貫二	1	1	2
一六貫三	1	1	2
一六貫四	1	1	2
一七貫五	1	1	2
一七貫六	1	1	2
一八貫七	1	1	2
一八貫八	1	1	2
一九貫九	1	1	2
一九貫〇	1	1	2
二〇貫一	1	1	2
計	四七五	五三三	一、〇〇八

二六、身長別人員

滿二十歳以上ノ本村民ニ就キ其ノ身長ヲ最モ短身ナルモノヨリ一寸毎ニ分テ各階級ノ人員ヲ記スレバ

左ノ如クニシテ多數ヲ占ムル場合ハ男ニ於テハ五尺一寸以上五尺四寸未滿、女ニ於テハ四尺七寸以上四尺九寸未滿ナリ、而シテ最モ多數ヲ示ス階級ハ男ハ五尺二寸以上五尺三寸未滿、女ハ四尺七寸以上四尺八寸未滿ノ階級ナリ

身長	男	女	計
四尺〇	1	1	2
四尺一	1	1	2
四尺二	1	1	2
四尺三	1	1	2
四尺四	1	1	2
四尺五	1	1	2
四尺六	1	1	2
四尺七	1	1	2
四尺八	1	1	2
四尺九	1	1	2
五尺〇	1	1	2
五尺一	1	1	2
五尺二	1	1	2
五尺三	1	1	2
五尺四	1	1	2
五尺五	1	1	2
五尺六	1	1	2
五尺七	1	1	2
計	四七五	五三三	一、〇〇八



二七、壯丁検査最近十箇年ノ成績 (第二十一表参照)

明治四十四年ヨリ大正九年ニ至ル最近十箇年本村壯丁検査ノ成績ヲ舉グレバ左ノ如シ

年次	甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	計
明治四十四年	六	一九	四	四		三三
大正元年	九	一一	六	四		二六
同二年	五	一三	五	一		二三
同三年	七	二	八	四		二一
同四年	一〇	一四	一〇	四		三八
同五年	一九	七	七	四		三七
同六年	一二	二	九	四		三七
同七年	七	七	九	四		二八
同八年	三	一四	七	四		二七
同九年	一四	一六	七	一		四〇
計	九二	一一五	七〇	三〇	三	三二〇

右十箇年ノ平均ニ就テ壯丁百人中、體格等差別ノ歩合ヲ見、之ヲ大正九年全國壯丁検査ノ成績ト比較スレバ左ノ如シ

本村	甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	計
本村	二九・七	三七・一	二二・五	九・七	一・〇	一〇〇・〇
全國	三六・一	三七・四	二二・七	四・三	〇・五	一〇〇・〇

即チ本村ノ成績ハ全國平均ノ成績ニ比シ甲種ハ尠ク、乙種、丙種、戊種ハ略相等シク、丁種ハ多

シ、而シテ甲種及乙種ノ計全國ハ七三・五%ナルニ對シ本縣ハ五九・六%ナリ

本村ノ滿二十歳以上二十一歳未満ノ男子ノ平均體重ハ十四貫七百二十匁、平均身長ハ五尺二寸六分ニシテ大正九年全國壯丁検査ノ成績ニ依レバ平均體重十三貫八百七十七匁、身長五尺二寸四分ナルヲ以テ本村壯丁ハ之ニ比較シ體重ニ於テ八百四十三匁重ク、身長ニ於テ二分高シ

二八、寄生蟲、原蟲病ノ他地方病

糞便検査ノ成績

村民ニ就テ腸管寄生蟲卵ヲ検査スベク各個ノ糞便ヲ検査スリ、検査方法ハ「アンチフォルミン」及「エーテル」ヲ使用シテ集卵法ヲ行ヒ、顯微鏡的檢索ヲ爲セリ

糞便検査ヲ施行セル本村被検査人員ハ男九五五名、女一、〇六〇名、計二、〇一五名ニシテ本村現住人口二、一七四名ニ對シ九二・七%ニ當ル、今其ノ成績ヲ順序ヲ追フテ叙セントス

二九、寄生蟲卵保有者ノ割合 (第二十三表参照)

検査人員	男		女		計	検査人員百ニ對スル男女計ノ割合
	卵非保有者	卵保有者	卵非保有者	卵保有者		
検査人員	九五五	一七〇	一、〇六〇	二、〇一五		
卵非保有者	一七〇	七八五	一四五	三二五	一五・六	
卵保有者	七八五	二八二	九一五	一、七〇〇	八四・四	
十二指腸蟲卵保有者	二四八	六八二	二八二	五三〇	二六・三	
蛔蟲卵保有者	六八二	八四五	一、五二七	七五・八		
計					五七	

鞭蟲卵保有者
東洋毛櫛線蟲卵保有者
肝ヂストマ卵保有者

三八八
四
一七

四五二
六
九

八三九
一〇
二六

四一六
〇・五
一・三

五八

三〇、年齢別寄生蟲卵保有者 (第二十二表参照)

寄生蟲卵保有者及非保有者ヲ年齢別ニナシ示セバ左ノ如シ

年齢	検査人員	蟲卵保有者	蟲卵非保有者
〇	一	六	四七
一	二	二二	三五
二	三	三九	一五
三	四	四二	九
四	五	五七	一〇
計	二八二	一六六	一一六
一〇	二八五	二五五	三〇
一五	二四〇	二二一	一九
二〇	一七八	一六三	一五
二五	一三三	一〇八	一八
三〇	一三五	一二七	一八
三五	一三四	一一六	一八
四〇	一二四	一〇八	一六
四五	一一七	一〇二	一五
五〇	九五	八二	一三
計	九四	八〇	一四

一 種類ノ蟲卵ヲ發見セシモノ

五五—六〇	七〇	六〇	一〇
六〇—六五	五七	四七	一〇
六五—七〇	四一	三六	一〇
七〇—七五	二五	一七	一〇
七五—八〇	一〇	八	一〇
八〇—八五	一	一	一〇
八五—九〇	三	三	一〇
九〇—九五	一	一	一〇
九五—	一	一	一〇
計	二〇一五	一、七〇〇	三二五

二 種類ノ蟲卵ヲ發見セシモノ

十二指腸蟲	五一	男	四〇	女	九一	計
蛔蟲	二五八	男	三〇八	女	五六六	計
鞭蟲	二四	男	一七	女	四一	計
東洋毛櫛線蟲	一	男	一	女	一	計
肝ヂストマ	三	男	一	女	四	計
計	三三六	男	三六七	女	七〇三	計
十二指、蛔	七八	男	一〇七	女	一八五	計
計	五九	男	一八五	女	一八五	計